

# 市内中心部拠点の開設について

NPO法人そーさぼ旭川

1

## 1-1 事例の蓄積から見てきたニーズ(当事者)

### Aさん(40代女性)

- 高齢の父との2人暮らし
- 10年前に同僚との対人トラブルで退職して以来、稼働歴無し
- 対人への不安がある
- 日中の外出はできないが、夜間にコンビニに行くことはできる
- 過去に精神科で不快な思いをしており、二度と受診したくないという気持ち強い
- 買い物以外の家事を担当しており、得意としている



### Bさん(20代男性)

- 持病がある母との2人暮らし
- 小学校から不登校となり、中学校も登校しないまま卒業
- インターネットゲームを好み、徹夜でゲームをするため、昼夜逆転生活
- 整容面での課題がある
- 母以外の他人と関わることへの苦手強い
- 持病がある母が外出する時には、付き添うことができる



### Cさん(50代男性)

- 一人暮らし
- 30代で失業して以来、両親の収入によって生活
- 母と父が要介護状態となり、Cさんが数年間介護していたが、相次いで亡くなる
- 遺産を切り崩しながら生活
- 両親以外との交流を断っていたため、対人に不安がある
- 気持ちを言葉にすることが苦手
- 一通りの家事をこなすことができ、金銭管理も問題なくできる



診断や手帳がなく、利用できる社会資源が手薄な当事者のニーズ

2

## 1-2 事例の蓄積から見てきたニーズ(支援者)

### Aさんを見つけたDさん

- ・ 地域包括支援センターの保健師
- ・ Aさんの父に認知症状が出現し、コンビニで万引きをしたことがきっかけで介入
- ・ 家族と面談するため家庭訪問したところ、Aさんと出会う
- ・ Aさんの父に介護サービスを導入するため、Aさんに関わる機会が増える
- ・ Aさんから「自分の将来についても、Dさんに相談したい」と持ち掛けられる



### Bさんを知ってるEさん

- ・ 民生委員
- ・ Eさんの二男とBさんが同級生であることから、Bさんのことを心配している
- ・ Bさんの母に、障がい福祉サービスについて話してみたところ、「うちの子は障がい者ではないから」と断られてしまった



### Cさんに関わるFさん

- ・ Cさんの両親を担当していた居宅のケアマネ
- ・ 両親が要介護状態となったことをきっかけに、Cさんと出会う
- ・ 母は施設に入り、父は在宅で介護サービスを利用しながら、Cさんが介護を担った
- ・ 父の介護に取り組むCさんの相談に乗り、数年間サポートしたため、信頼関係が構築された
- ・ 両親が死亡したあとも、Cさんを気に掛けて時々連絡を取っている



制度対象外の当事者を発見して行きづまる支援者のニーズ

3

## 1-3 事例の蓄積から見てきたニーズ(企業・地域)

### 商店会のGさん

- ・ 商店会に加盟する個人商店では、求人を出しても働き手が見つからない
- ・ フルタイムで一人を雇えるほどの仕事ではないが、店主一人でこなすのは難しい
- ・ 短時間の店番、店主の手が回らない時間の掃除、バックヤード作業等、人手がなくて困っている時だけ、少し手伝って欲しい
- ・ この状況が続くと、事業の継続が難しくなる可能性がある



### 企業経営者のHさん

- ・ 求人媒体に費用を投じて募集を掛けても採用に至らず、やっと採用しても、長続きしない
- ・ どうしたら人材を採用でき、長く働いてもらえるか悩んでいる
- ・ 採用後のミスマッチを防ぐため、仕事の内容をよく理解してもらいたいが、方法がわからない
- ・ この状況が続くと、事業の継続が難しくなる可能性がある



### 町内会役員のIさん

- ・ 住民の高齢化が進み、現役世代は共働きが増えている
- ・ 地域活動に参画できる層が少なくなっており、担い手への負担が大きくなっている
- ・ 地域で担い手を確保することに限界がある
- ・ 地域に住んでいない人でもいいので、担い手が欲しい
- ・ この状況が続くと、町内会活動の継続が難しくなる可能性がある



働き手不足・担い手不足の確保に悩む企業・地域のニーズ

4

## 1-4 事例の蓄積から見てきたニーズ～「伴走型支援」を誰が担うのか

### 支援者

- 制度にぴったりはまらない対象者への介入が苦手
- 介入を拒否するケースに関わることが苦手(関われないと思ひこんでいる)
- 制度という根拠がない対象者に長くゆるやかに関わることが苦手(「良い加減」な支援が苦手)(一方で)
- 制度の対象者がサービス利用を希望している場合、課題をアセスメントし、それに対応するサービスを提供する構図の支援は得意(課題解決型支援)
- 発見する力がある

### 当事者

- 何らかの生きづらさを抱えているが、それにぴったり対応する制度がない
- 制度につながる力が弱い
- 自分からSOSを出すことが苦手
- 他者との接点が少ない、無い
- 関係性の困窮がある
- 手続きが苦手
- 介入に拒否的(一方で)
- 当事者しか知らないことを知っている。
- 困っている当事者のロールモデル(先ゆく仲間)となれる

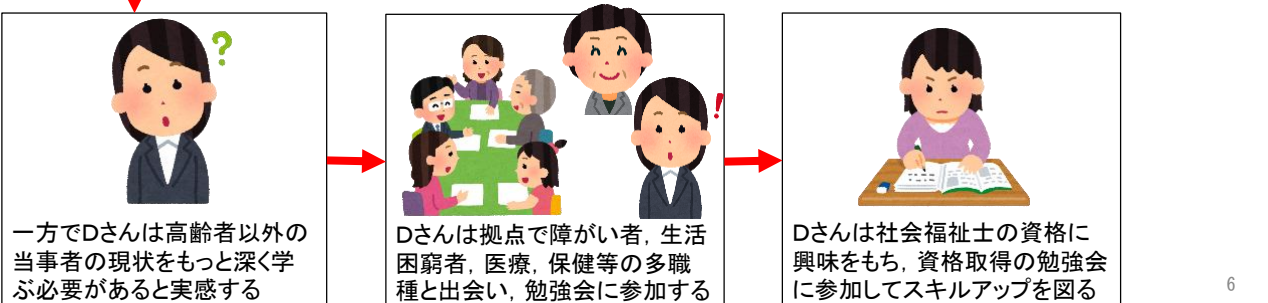
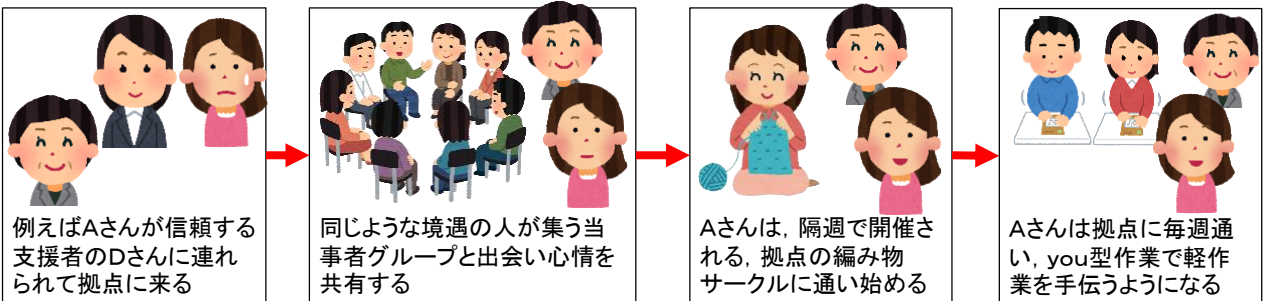
### 地域・企業

- 支援とは困っている当事者と支援者の間で完結するものと思ひ込んでいる
- 多様な人材を共に働くスキルが身に付いていない、スキルアップする方法がわからない(一方で)
- 地域活動の担い手・働き手の不足に悩んでいる
- 多様な人材と共に働くスキルがあれば、組織の持続可能性が高まると思っている
- 伴走する頭数・手数(提供できる機会の数)が圧倒的に多い

誰もがそれぞれの立場で伴走型支援の担い手となれる仕掛けが必要

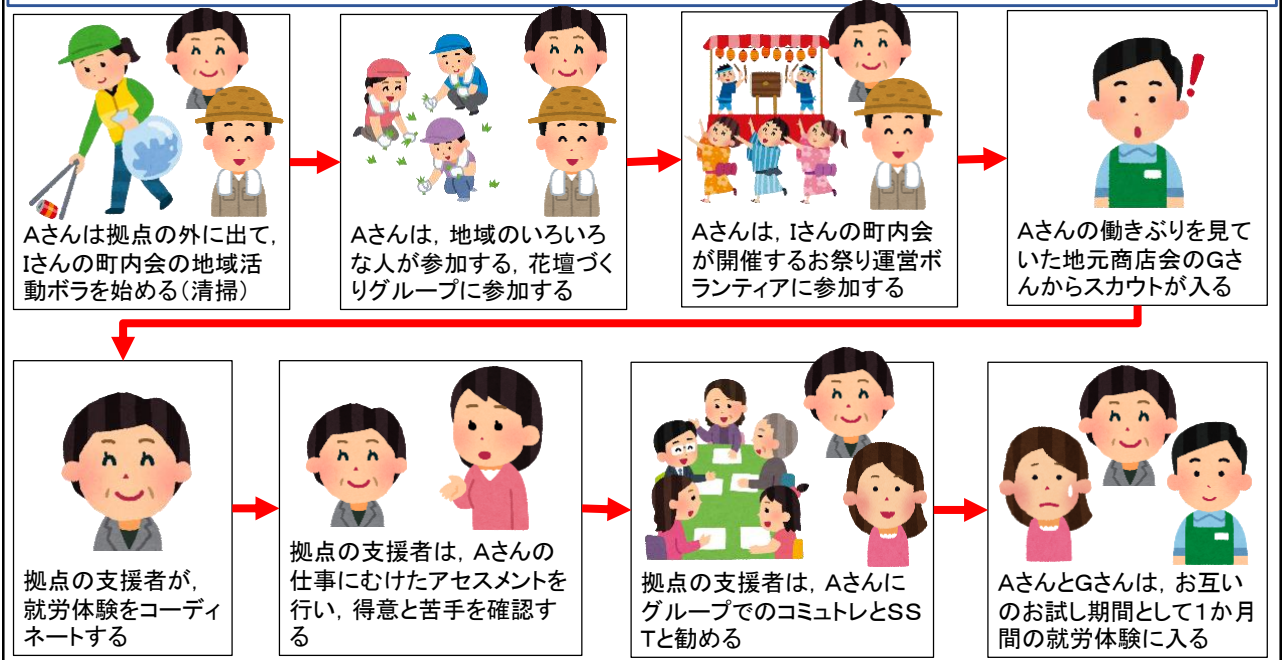
5

## 2-1 拠点の事業イメージ(たとえばAさんから始まる物語)

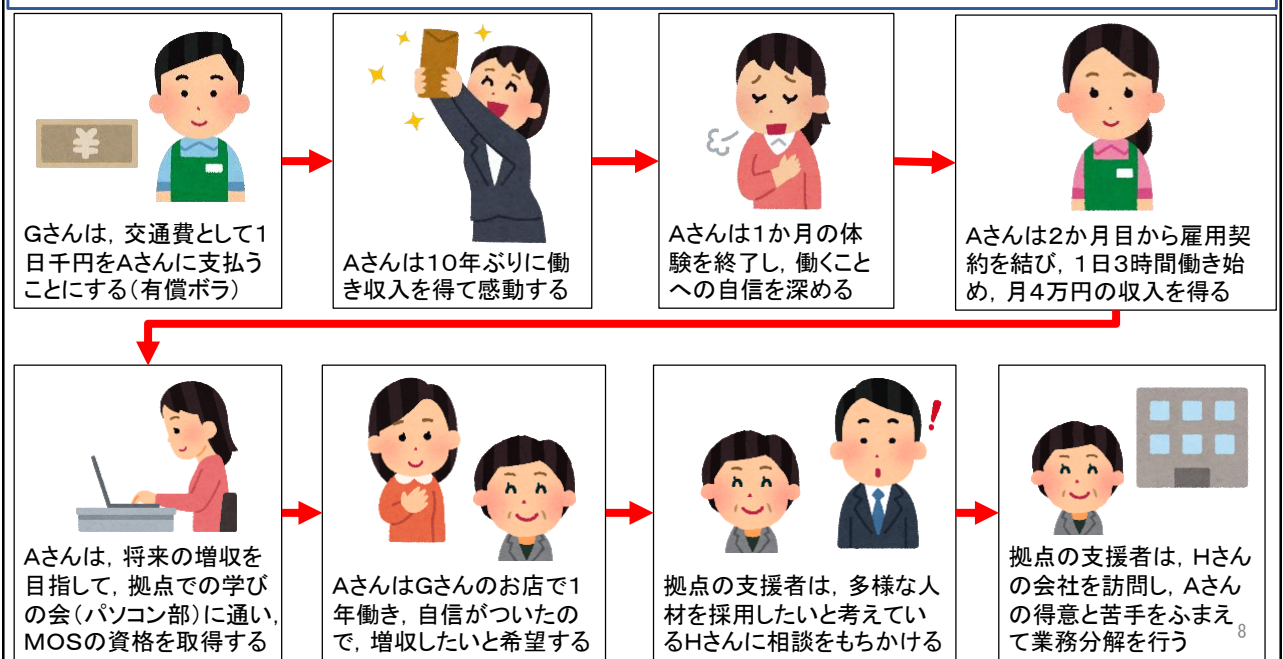


6

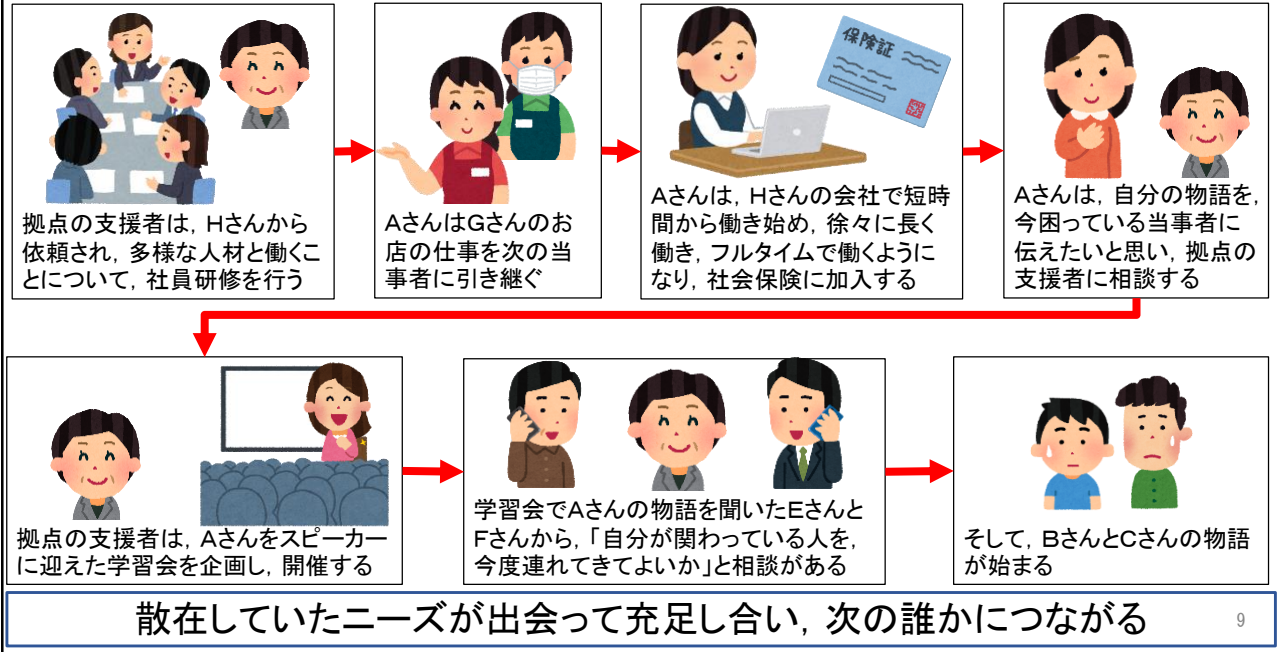
## 2-2 拠点の事業イメージ(たとえばAさんから始まる物語)



## 2-3 拠点の事業イメージ(たとえばAさんから始まる物語)



## 2-4 拠点の事業イメージ(たとえばAさんから始まる物語)



9

## 3 拠点が担う役割

支援者同士の学び合い・スキルアップの場  
(支援者ネットワーク)

地域・企業がスキルを学ぶ場  
(多様な人材と協働するスキル)

当事者が支え合う場  
(ピア・当事者会)

企業と支援者が体験や見学メニューを構築する場  
(就労体験)

支援者が当事者から学ぶ場

当事者が活躍する場  
(軽作業の場・you型事業所)

当事者が安心して集える・好きなことでつながる場  
(部活動・居場所)

当事者がライフスキルや知識を身に付ける場  
(学び直し・訓練)

当事者が地域・企業と出会い交流する場  
(社会参加)

支援者／当事者／地域・企業が出会い、互いのニーズを充足し合う

10